

大学教育における 「トランスサイエンス時代の対話力」 育成の論点

指定討論: 西垣順子(大阪市立大学)

大学生にとっての「対話力」の側面

- 他者とのコミュニケーション能力
- 自己成長力
 - 他者との対話
 - 対面形式での対話
 - 文章, 映像等による非対面状況での対話, 情報の受け取り
 - 自己内対話
 - 生涯学習のための学習スキル (対話力, 質問力etc.)
 - 自己認識を深めることによる人格形成
=「自発的知的拡張性」(飯吉, 2008)を広げる

論点

- 「『トランスサイエンス時代』の対話力」の定義・範囲・構造
- 「『トランスサイエンス時代』の対話力」を身につけることは, 学生にとってどのような意義があるのか, その意義を学生はどのように納得するのか(学生発達の研究, 教育)
- 「自然科学系教養教育」or「教養教育カリキュラム作り(経験されるカリキュラムを含む)」をどうするか(大学教育の研究開発)

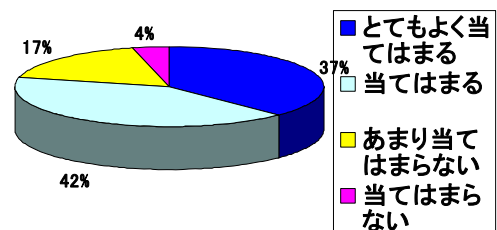
興味を「持てる」が興味を「持たない」

- 文系・理系学生ともに, 自然科学の全体像を学ぶ機会を逸している
 - 高校時代に履修した科目だけを大学でも履修(「総合科目」の履修が少ない)
 - 文系の学生を中心に, 自然科学系の科目を全く履修しない
 - 自然科学系の科目も履修する学生のGPA > 履修しない学生のGPA
- 大久保(2008, 準備中)

「文系学生」が自然科学教養科目に触れるとき(OCUの場合)

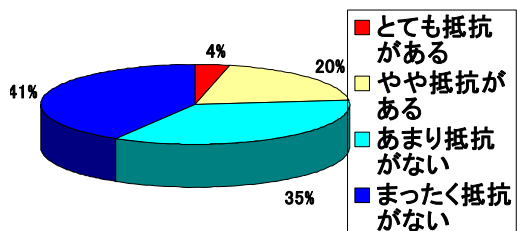
- 実験科目を履修した学生の感想
 - 自分自身と科学・技術の関係を見つめなおした様子
 - 自分自身の過去と現在(授業履修), 未来と, 自然科学の間の橋渡し
=「市民」としての人格形成

実験の経験は有意義であったか



慶應義塾大学文系学生4000名に対するアンケート調査
金子(2007)

文系学生に自然科学の履修が義務付けられていることに抵抗があるか



慶應義塾大学文系学生4000名に対するアンケート調査
金子(2007)

論点

- 『『トランスサイエンス時代』の対話力』の定義・範囲・構造
- 『『トランスサイエンス時代』の対話力』を身につけることは、学生にとってどのような意義があるのか、その意義を学生はどのように納得するのか(学生発達の研究, 教育)
- 「自然科学系教養教育」or「教養教育カリキュラム作り(経験されるカリキュラムを含む)」をどうするか(大学教育の研究開発)